

中土佐町地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和6年度)

中土佐町基礎データ

合併状況:平成18年1月に1町1村が合併
人口:5,796人(令和6年11月現在)
面積:193.21平方キロメートル

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

中土佐町における主な公共交通概要

○鉄道:JR四国(土讃線)

○バス

(幹線)

①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を
経由する民間事業路線

②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経由する民間事
業路線

(フィーダー)

・令和6年度地域内フィーダー系統として町内を運行して
いるコミュニティバスは、全7路線

久礼地区では、土佐久礼駅を起点に3路線が運行

大野見地区では、大野見保健福祉センターを起点に3
路線が運行している。

上ノ加江地区では、上ノ加江診療所前を起点に1路線
が運行している。

・フィーダー系統

①萩原・大野線

②楠ノ川線

③長沢・大坂線

④下ル川線

⑤萩中線

⑥高樋線

⑦上ノ加江線

中土佐町の公共交通ネットワーク図



協議会の構成員

高知県 中土佐町 町内利用者代表 高知高陵交通(株)
(株)四万十交通 (有)中土佐ハイヤー (社)高知県バス協会
高知運輸支局 須崎警察署

前年度の事業評価における課題

一定の場所での意見交換会のみではなく、個別訪問など新たな利用者を生み出す取り組みを行い利用者のニーズを把握する必要がある。
また、引き続き意見交換会で公共交通にどのくらいの予算がかかっている状況なのか、公共交通に対する意識を深めてもらい、利用してもらえるように、福祉部門や関係団体との協働による利用者のすそ野を広げる取り組みを展開していく必要がある。

定量的な目標・効果

(目標)

目標1:コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない。

・系統①:7.3人以上、系統②:10.1人以上、系統③:4.3人以上、系統④:17.1人以上、系統⑤:13.5人以上、系統⑥:8.2人以上、系統⑦:10.1人以上
目標2:コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、

前年度実績を下回らない。

・コミュニティバスおよび路線バス利用者数:49,087人以上

目標3:高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を前年度と比較して5%以上増加させる。

目標4:「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%を超えて増加させる。

(効果)

各系統の運行を維持することで、中山間地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。

幹線系統の路線バスと連携することにより、広域的な移動における利便性が向上する。

フィーダー系統図



①、②、③は、土佐久礼駅を起点として、久礼地区中心部は経路を共有して運行。

④、⑤、⑥は、大野見を起点として、萩中～大野見間は経路・ダイヤを共有して運行。

⑦は上ノ加江を起点として運行。

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・平成31年3月に策定した地域公共交通網形成計画の具体的施策に準ずるかたちで地区別意見交換会を行った。
- ・住民との意見交換により把握した利用者ニーズを共有し対応方法を検討するため、交通各社との調整会議(中土佐町バス路線運行ダイヤ調整会議)を行った。
- ・地域公共交通会議を令和6年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持・再編、令和7年度からの地域公共交通計画について協議を行った。
- ・中土佐町地域公共交通網形成計画に沿って車両利用の利便性向上の検討を行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・地区別意見交換会の開催及び地区への個別訪問はできたが、公共交通利用者懇談会は昨年度に引き続き実施できなかった。
- ・地区別意見交換会で把握したニーズに合わせダイヤ等を改正、すべての公共交通を網羅した時刻表冊子の作成を行った。
- ・高齢者の買い物・通院等への移動手段として機能した。
- ・バスの乗り方教室を開催し、既利用者及び未利用者への利用促進を行った。

「定量的な目標・効果」の達成状況

目標1(コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない)は、路線別には以下の達成状況となった。

- ・系統 ①萩原・大野線、④下ル川線、⑦上ノ加江は、目標値に対し106%~154%と利用が安定した状況にある。
- ・系統 ②楠の川線は、目標値に対し△20.9%と利用減となっている。頻繁に利用していた利用者の利用が無くなったことが大きな要因。
- ・系統 ③長沢・大坂線は、目標値に対し△26.8%と利用減となっている。令和7年度運行から路線編成を実施。利用がない地区は路線休止、利用要望のある地区への運行を開始し利用者増を図る。
- ・系統 ⑤萩中線は、目標値に対し△11%と利用減となっている。数年前から頻繁に利用していた利用者の利用が無くなったことが大きな要因だが、安定して利用者はいる状況。
- ・系統 ⑥高樋線は、目標値に対し△47.3%と利用減となっている。毎年利用者が少ない状況である。令和7年度から利用がない地区は運行休止、減便を実施し利用者増を図る。

目標2(コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、前年度実績を下回らない。)は、路線バスの学生利用が減少したことにより、利用者数が減少している。前年度比△2.4%減となり目標を達成できなかった。

目標3(高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を前年度と比較して5%以上増加させる。)は未実施となった。

目標4(「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%を超えて増加させる。)は、目標値103人に対して、104人(小児用:6人、大人用:87人、65歳以上用:11人)となっており、目標値を達成している。

今後の事業に向けた改善点

今後も、地域の移動ニーズを継続的にヒアリングし可能な限りニーズに対応していく。対応できないニーズについては利用者に理解してもらえよう説明を行う。

令和5年度から導入を行った高齢者等外出支援事業(バスパス)デジタル化について、引き続き広報等で周知を行い、未利用者に公共交通を知ってもらい、利用してもらえよう、福祉部門や関係団体との協働による利用者のすそ野を広げる取り組みを展開していく。

令和6年3月に地域公共交通網形成計画の後続計画として、地域公共交通計画を策定。計画に沿った事業推進を行い、持続可能な公共交通を目指す。

【公的負担】

令和6年度:14,440千円

前年比:1.3%

・物価高騰の影響等が今後も懸念され、今後も公的負担が増加していくことが想定される。地域公共交通計画に掲げる目標を着実に推進していく。

その他PRポイント

町内を運行するすべての路線バス(コミュニティバスを含む)を網羅した時刻表冊子の作成をおこなった。
高齢者等外出支援路線バス無料化事業のデジタル化の本格運行をおこなった。